

平成30年度 輪島市立鳳至小学校 前期 学力向上プラン

プラン名 耳をかたむけ、言葉をキャッチ！

1 現状・課題（Rリサーチ）

	現在の姿	科学的なデータ（分析・原因）
授業	相手や目的に沿って自分の考えを適切に表現できない。	H30年度 全国学力調査 【国語B 2 二】 - 目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書くことができる。推薦する理由として【紹介する文章】【保健室の先生の話から分かったこと】から適切な内容を取り上げて相手に伝わるように表現する。 40.0% 原因：前後の文章を読んで、むし歯をふせぐ効果であることが判断できず、適切な内容を根拠に表現できていない。何のために推薦するのかという目的が明確になっていないことが考えられる。 【算数B 5（1）】 - 折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、枚数、本数、個数などの数量を関連づけ、根拠を明確にして式や言葉を用いて記述する。 21.7% 原因：判断するための数値は記述できているが、判断するための数値を求める式や言葉の記述が不足している。自分はわかっているので相手もわかっているだろうと判断して、わかりやすく伝えようという相手意識が低いことが考えられる。
基盤	自分の考えを根拠や理由をもとに適切に表現できない。	チャレンジ短作文 根拠や理由を明確にして自分の考えを書くことができる。 58% 原因：根拠や理由をより明確に書くことができるような題材の精選、また、例文を提示して、根拠はどこから引用するのかを確認してから書かせることで、根拠は書くことができるようになってきた。しかし、理由が根拠とうまくつながらない、理由にも根拠が入り交じるなどの課題が見られる。

2 目標（Gゴール）

	目指す姿	科学的なデータ（目標）
授業	相手や目的に応じてわかりやすく説明したり、反応を返したりしようとする児童を70%にする。	全国学力量習状況調査学力量習状況調査【H28国語B1三】 - 話し手の意図を捉えながら自分に必要な情報を得たり、自分の意見と比べながら話の展開に沿って話したりする。 70% 全国学力量習状況調査【H24算数B2（2）】 - 示された情報を用いて、指定された高さにすることができるかどうかを判断し、その理由を言葉や数を用いて表現する。 70% 意識調査 - 発表している人の方を向いて聴いている 70%
基盤	根拠や理由を明確にして、自分の考えを表現できる児童を70%にする。	児童の姿（チャレンジ短作文） 根拠や理由を明確にして自分の考えを書くことができる。 70%

3 仮説・具体的取組（Pプラン・Aアクション）

	取組	ポイント	指標
授 業	課題意識を持たせ、また、継続させることで、児童が主体的に考えたり、相手の発言を一生懸命に聞いたりできる授業を行う。	・見通しの持てる学習課題を提示する。 ・話し合いの目的を確認し、課題と児童をつなぐ。 ・相手の発言に対して反応を返す児童を育てる。	70%以上
基 盤	根拠や理由を明確にし、それをもとに考えを短作文に書かせる。	・根拠を引用して書くことができる題材設定を工夫する。 ・文の構成の仕方や根拠や理由の内容例を示す。 ・検証結果から出された課題に応じて推敲問題を作成し、取り組む。	70%以上

4 実行・検証と評価（Dドゥ・Cチェック）

月	取組（何を、どのように）	検証（何で、いつ、誰が）	評価 (◎ △)
4	☐ 今年度の学習のめあてを児童と確認する。 ☐ 話し方、きき方のガイダンスを行う。 ☐ 根拠や理由を明確にした短作文を書かせる。	教師の意識調査 ・学習ガイダンスを行った。 ・話し方、きき方ガイダンスを行った。 ・根拠や理由を明確に書くことができた短作文の割合	
5	☐ 授業において見通しの持てる学習課題を提示し、児童が主体的に学習できるようにする。 ☐ 課題意識や相手意識を継続できるような指示や発問を行う。（話し合いの目的、深めの発問） ☐ 友達の発言に対して、反応を返す。 ☐ 根拠や理由を明確にした短作文を書かせる。	授業研究 ・教師の発問に対して反応した児童の割合。（児童の姿、発言内容） ・友達の発言に対して反応した児童の割合 ・根拠や理由を明確に書くことができた短作文の割合	
6	☐ 授業において見通しの持てる学習課題を提示し、児童が主体的に学習できるようにする。 ☐ 課題意識や相手意識を継続できるような指示や発問を行う。（話し合いの目的、深めの発問） ☐ 友達の発言に対して、反応を返す。 ☐ 根拠や理由を明確にした短作文を書かせる。	授業研究 ・教師の発問に対して反応した児童の割合。（児童の姿、発言内容） ・友達の発言に対して反応した児童の割合 ・根拠や理由を明確に書くことができた短作文の割合	
7	☐ 授業において見通しの持てる学習課題を提示し、児童が主体的に学習できるようにする。 ☐ 課題意識や相手意識を継続できるような指示や発問を行う。（話し合いの目的、深めの発問） ☐ 友達の発言に対して、反応を返す。 ☐ 根拠や理由を明確にした短作文を書かせる。	授業研究 ・教師の発問に対して反応した児童の割合。（児童の姿、発言内容） ・友達の発言に対して反応した児童の割合 ・根拠や理由を明確に書くことができた短作文の割合	